

第17回 原爆、回展

展示期間 2021年11月11日(木)～11月14日(日) 文京シビックセンター 1階 展示室2
展示内容 原爆の図・展示作品 「火」「少年少女」(原寸大レプリカ)
特別企画 ヒロシマの被爆樹木 核兵器禁止条約 「ヒロシマへの誓い サー口節子とともに」 上映
なお、「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」展示、他
関連図書、DVDがあります。

1945年8月6日と8月9日、広島と長崎に投下された二発の原子爆弾は15万人の死傷者を出し、二つの都市を全滅させました。原爆投下後の広島を目の当たりにした丸木位里、丸木俊夫妻はアメリカ占領下で殆ど原爆の報道が許されず、写真も数枚しか残されていない状況のなかで、自分たちの見た地獄のような光景を絵にして世界に訴えようと決意しました。今回展示する作品は第二部「火」第五部「少年少女」の2作品です。

第二部 「火」

ピカッ。青白く強い光。爆発、圧迫感、熱風。— 天にも地にも人類がいまだかつて味わったことのない衝撃。次の瞬間に火がついた。めらめらと燃えあがり、広漠たる廃墟の静寂を破って、ごうごうと燃えていったのであります。うつぶせて家の下敷きになったまま失心した人、気がついて抜け出ようとして、紅蓮の炎につつまれていった人。



第五部 「少年少女」

流れに沿い、頭を並べて水をしたい、そうして累々とつらなり死んでおりました。末期の水は、川辺までたどりついてもまだずっと下の方でしたから、水ものまずに息を引きとったのです。おとなたちの建物疎開の手伝いに子どもたちが動員されたのです。一クラス全滅、というクラスがたくさんあります。かわり果てた姿で抱きあっている姉と妹。からだにかすり傷一つないのに死んでいった少女もあります。

